

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100500		
法人名	高田産業 有限会社		
事業所名	グループホーム太陽 まゆみだの家		
所在地	長野市檀田2丁目23-10		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100500-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成29年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的で尊厳ある生活環境の中で、心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者と家族の幸せを追求する」この運営理念を職員皆で共有、実践することで、ご利用者様、ご家族様と信頼関係を構築し、ご利用者様が笑顔で安心できる住まいを築いております。また、ご家族様が笑顔でひと時を過ごすことができる「幸せの集まる場所」を追求していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

まゆみだの家から大通りに出ると医療機関・薬局・食料・飲食の各店が軒を並べ、隣は公園、裏は住宅街と立地条件に恵まれており、外出環境は優れている。そこでは、利用者と職員が輪を作って交わり合い、支援する側・される側の関係も薄く、共に生活を楽しんでいる。そして、利用者の経験を活かした各種作業や身体機能維持を目的とした各種レクリエーションでは利用者・職員が積極的に楽しむ事業所である。当然、職員の細やかな支援の下の知恵を絞りながらの取り組みや、利用者一人ひとりが力を発揮できる場面作りなど、創意工夫も感じ取れる。
「家にいる時より明るい、楽しそう、体調や動きも良くなった」などの家族からの満足の声は、職員にとって何よりも喜びと励みとなり、新たな取り組みへと繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(すみれ) ※1ユニットの場合は2ページめは必要ありません。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	☐	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)	☐	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。							
ユニット名(あじさい)							
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の会議の始めに全員で理念の唱和を行うと共に理念の本意を確認し合います。会議、研修、勉強会等様々な場面で、理念による職員皆のベクトル合わせをすることで、職員同士の共通目的・課題を解決できる取り組みを大切にしています。	「家庭的で尊厳のある生活環境の中で心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者とその家族の幸せを追求する」という理念の下に、まず「利用者が第一」という支援に努めている。 そして、毎月の会議で理念の唱和とともに理解の深まりを進めているので、利用者への不適切な声掛けが気になる際は「理念はどうだ?」と考える自覚もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭り、お神輿、消防訓練等様々な地域行事にも参加し、お茶飲みサロンやオレンジカフェ等地域の方々と自然と声を掛け合う関係を築き、地域の一員となるつながりを持っています。 まだまだ、事業所、認知症についての理解、良好な地域関係構築のためにも毎日のあいさつや隣の公園のゴミ拾いなど地道な活動を大切にしていきたいです。	地域でのお祭り、お神輿、盆踊りなどの行事に参加したり、近くの小学校との交流もある。また、天気の良い日には隣接する公園に出掛け、そこでの地域の人との挨拶・繋がりが、時には野菜・果物のお裾分けや、住民主体のオレンジカフェへの月一回の外出で交流も深まってきている。	地域自治会への働きかけで回覧板に太陽通信の添付を行い、一人暮らし世帯の相談に応じる旨を周知したり、定期的な小学校との交流を更に強めたりと、地域との繋がりをより強める取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の継続、地域行事への積極的な参加等により、グループホーム、認知症を知っていただく取り組みを行っています。今後もまずは参加することの継続により、地域の皆様に興味を持っていただく場面作りに努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	ご利用者様の生活状況や避難訓練について、ヒヤリハットについてなど多岐にわたり報告、相談、検討できる場面も増えてきています。また、クリスマス会等行事に参加していただく機会もグループホームを知っていただく良い場面につながったのではと感じています。	二カ月に一回の会議には家族会・区長・民生委員・行政職員が参加し、事業所の取り組みの説明を行い「良い点・気になる点」のアンケートを通しての集約で、課題についての改善が行われている。 また、避難訓練やクリスマス会などの行事には委員の参加も盛んで、利用者や事業所の状況の把握による外部の方のアドバイス等も真摯に受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	疑問点、問題点等あれば、市の担当者と連絡を取り合い、指導、助言、確認を行っています。 また地域包括支援センターとの連携により地域の状況（認知症、独居高齢者等の受け入れ）など情報共有、相談、対応等協力関係を築いています。	市の担当者が運営推進会議委員でもあり、また、地域包括支援センターとの連携で、地域の高齢者等の情報を共有している。	地域の一人暮らしの高齢者の実態など、地域包括支援センターとの情報共有の下に、太陽通信を活用した相談や支援について可能な取り組みの検討が始まることが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての勉強会を実施しています。 また、実際のホームで起こりうる事例を検討し、ご利用者様の尊厳や自由を基にしたケアにつながっているか等の話し合いを行っています。	「利用者の尊厳を守るための身体拘束ゼロ運動」の下に研修を行い、日中は玄関の施錠は行っていない。 また、夕方になって家に帰りたがる利用者には職員が丁寧に話しかけて不安を取り除くなど、研修によって対処から原因へと意識が進んでいると思われる。 尚、不審者対応の防犯カメラは今年度設置したところである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等含め、法的理解を学び、スタッフ間でもお互いの行動、言動に気をつけ目を向けることでご利用者様がどのような状態、変化があっても虐待の防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、リーダーは研修、勉強会を行い制度の理解、必要性について理解しています。 また、ご家族や地域包括支援センター等と必要性に応じ相談、情報提供に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、利用料金等の説明を行い、ご家族の不安や疑問点について話し合い、同意、理解していただいています。 法改正による料金改正時等、その都度御家族様へ説明文やご報告によりご理解、ご承諾頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にホーム、公的苦情相談場所を明確にし、太陽通信や意見投書箱等により伝えやすい雰囲気作りに努めています。 また、運営推進会議等をはじめ、敬老会や忘年会等家族参加行事の機会をつくりご利用者、ご家族の意見の収集に努めております。	毎月発行の太陽通信で利用者の日常生活の様子を家族に送り、知らせている。 敬老会・クリスマス会・うどん会には家族も招待して、利用者の楽しみの創出とともに家族の絆の維持に努めている。 なかでも、手打ちうどん作りを楽しみ食する近くの食堂を借りてのうどん会は、本人のあがままを知る家族からも好評である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、勉強会等によりスタッフとの意見交換を行う機会を作り、普段からご利用者のケア、チーム作りなどスタッフの言葉に耳を傾け、必要なことを反映させています。	毎月の職員会議の中で「利用者第一で、楽しく生活できているか」を常に話し合っている。また、運営推進会議での意見やアンケート結果について職員が振り返り、改善・共有を進めている。 職員からの提案で始めた「太陽を明るくしよう計画」により、壁紙や写真の掲示なども工夫されている。	計画は目的が達成できれば新たな計画・進化が必要であり、「太陽を明るくしよう計画」のバージョンアップが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は日頃のコミュニケーションと共に定期的に全スタッフとの面談を行い、職場環境・条件の整備について会社のビジョンを伝え、各自の目標設定、意欲向上につなげております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	リーダー、新人等個々のレベルに合わせ、将来ビジョンについて話し合い、社会人として、介護職として資質の向上に努めています。 またスタッフの希望を聞き介護、マネジメント等外部のスキルアップ研修にも参加しスタッフ育成を強化しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	病院との連携により、同業交流、意見交換を行う機会があります。今後も勉強会、情報交換会等の機会をつくり資質向上に取り組めます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、ご利用者とのコミュニケーションを中心に生活をしていくうえでの不安や心配に耳を傾け、ご利用者の安心と信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申込み、相談、面談等ご家族の様々な思い、困りことや不安など相談できる環境づくりから様々なホーム事例やホームの状況なども交え、ご家族とともに考え、受け止め、改善できるよう前向きな話し合い、関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談申し込み、面談等を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、ご利用者、御家族は何か必要なのか、どんな心配事、悩み事を持っているのか等確認し、状況に応じた対応を行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意見や尊厳を大切にし、ご利用者の性格、病状、個性を理解し、職員の一方的な思いで行う指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時、スタッフはご利用者様の生活状況を話すなど日々の中で信頼関係を築き、運営推進会議の参加や敬老会や家族行事への参加によりご家族と共にご利用者様の考え、気持ちを大切に信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームに来てくださる友人、知人の方々も多く、それぞれのご利用者様の馴染みの関係が続いています。 また、地域の交流会（お茶のみサロンやオレンジカフェ）等に以前からお知り合いの地域の方々もおり、馴染みの場所・関係が続いています。	休日の面会者が多く、家族や知人が訪ねてくることが孫が来ることもあり、利用者と家族等との関係の継続が保たれている。 また、外出や外泊も多く、希望により近くの衣料品店や食料品店への買い物の同行支援も行われている。 そして、次年度は馴染みの場所へと広げるといふ。	次年度からのライフストーリーとライフストーリーに着目した馴染みの場所への外出が増え、利用者個々の思い出の掘り起こしや覚醒に繋がることが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の相性、個性、性格を把握し、普段の生活の中で、役割、レク等生活の場面で職員が利用者様同士の架け橋となり、支え合える関係づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設、病院等に移られたご利用者、ご家族様と面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様、ご家族に自宅での生活習慣等をお聞きし、ホームでも昔行っていたことや好きな歌やお写真などを大切に過ごしていただけるよう、ご用者様の様々な思いや希望を多角的な角度で検討し話し合っています。	利用者・家族から、どんな生活を送っていかたいかを聞き取り、本人のすることに重点を置いたその人らしい生活を続けることを第一に考え・支援しているので、利用者は思いの生活を楽しんでいる。 また、ホールでは歌や体操が行われ、大きな声と笑顔が満ちている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者、ご家族、関係機関(地域包括支援センターや病院、居宅ケアマネ等)からの情報や話し合いをアセスメントシートにまとめ、スタッフ間で情報共有すると共に日常生活の疑問や生活歴等、面会時ご家族から情報を頂き、今までの暮らしや思いの把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の送り事項や総合チェック表、会議等により現状の確認、連携病院による心身状況やADL等の情報共有を行い、日常生活において職員の僅かな気づきも記録し、有する力、出来ることに目を向けその人らしい生活の支援に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の思いを基にケアプランを作成し、毎月各ご利用者様についてスタッフ皆でモニタリングを行います。モニタリングは主治医や連携医院の栄養士作業療法士の食事やリハビリに対する助言や意見を含め、現状に即したケアプランの作成、実践を行っています。	毎月の会議の中で利用者一人ひとりの行動の範囲を考察し、情報を共有して介護計画が作られている。 また、生活チェックシートを受診などの際に活用するなどして、主治医や栄養士からの助言も得るなど、他職種の専門性を加味している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等に様々なご利用者状況を記入し、情報の記録化を進め、スタッフで情報共有を行い、モニタリング、介護計画に反映させています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族の状況を理解し、様々なニーズに対応していける事業所づくりに取り組んでいます。これからもご利用者の思いやご家族のニーズに対応出来る事業所作りに取り組みます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常生活の中での交流（あいさつや会話）、お茶飲みサロンや地域御神輿などに参加し、また地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の温かさを感じることで生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者、ご家族様の承諾のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診協力体制を築き、また専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制です。	入所前からの継続医師での受診、協力医療機関での受診と、希望に応じて対応をしている。 家族の要望で付き添いを行った際は受診ノートにその結果を記載し、連絡するとともに全職員が共有する仕組みがある。 月二回の協力医の往診、訪問看護師の来訪、月一回の歯科医の往診は日常生活上での留意点や早い段階での対応が可能など、本人・家族の安心へと繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間、365日の体制でご利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制を築き、ご利用者の体調変化や不安に対しても相談できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各ご利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者様の状況変化等によりご家族との話し合いの場を設け、事業所、連携医師と今後の方向性やご家族、ご本人の意向を確認しています。また、職員はケア会議等で終末期についてのケア方法や方針についての理解、情報共有等に努め、チームによる支援に取り組んでいます。	入所時に緊急時や終末期の対応について事業所の方針を丁寧に説明し、本人・家族からの同意を得ている。また、協力医との24時間体制は大きな安心となっている。 ターミナルケアの実施はないが、職員はグループホームだからできる看取りケアについて研修や会議の中で話し合いを重ねて意識を高め、今の状態の維持と今後の生活が楽しめるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜の避難訓練を含めて研修を行い、全職員が迅速に非常事態や災害に対応できるようにしています。火災や地震についての緊急時対応の他にも、今後水害等の災害時対応にも力を入れ、手順、マニュアル書類も作成していくよう努めます。	昼夜の避難訓練には、運営推進会議メンバーにも参加してもらい、意見交換が行われている。 個々の避難時間や出火元に合わせた誘導順、ネームプレートの装着、大きな声での確認など、独自の訓練内容を含め職員の防災意識の高さが確認できる。	災害に対しては「平時から準備している事以上のことはできない」という意識を持ち、訓練で課題となった非常口などの動線の確保・整備、各種自然災害に対応可能なマニュアル等の整備及び対応訓練、訓練の際の隣近所の方の参加・見学などの日常的な繋がりが、協力の確保など、今後の取り組みを期待したい。 また、可能であればAEDの設置は望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様の尊厳や誇りプライバシーに対する研修を何度も実施しております。ご利用者様一人ひとりの個性、尊厳を大切にし、ご利用者様に対する言葉かけにも温かみのある丁寧な言葉をスタッフ一同意識し努めています。	尊厳を支える原則である「人生の継続性・自己決定・自己資源」を基本に、利用者一人ひとりに合った支援について話し合い、きめ細かな対応に努めている。 そして、利用者への言葉かけも丁寧でさりげなく、尊重とプライバシーへの配慮がある。	ともすればなれ合いや親しさの中で、言葉がけが不適切となっていないかなど、常に職員同士が注意を払い、これからも敬意を払った対応が続く事が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中で思いや希望を聞き、様々な場面で複数の選択肢を提供することで喜び、役割、思いに対する自己決定できる場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	優先すべきは「ご利用者様の気持ちや生活」であることを理解し、業務優先ではなく、その人らしさ、一人ひとりのペースを大切に支援できるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日の朝の洗顔、ひげ剃り、整髪に気を配り、馴染みの美容院へ行くご利用者様もおります。 また外出時にはお化粧をし、一緒にお出かけの服を選ぶなどその人らしさを大切にに取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立表を確認し、栄養バランスを考えると同時に、目でも楽しんで頂けるよう色どりにも気を配っています。食事メニューを利用者様と一緒に考え、味付けを教えて頂きながら調理、盛り付け、片付け等一緒に行っています。	献立は利用者と話し合い、決めている。 食事作りも利用者が積極的にかかわり、調理から味付けなど、主体的な活動が視られる。 食を重視した食前の嚥下体操・食後の口腔ケアが毎回実施され、全利用者の食事風景が普通と何ら変わらないことにその効果も実感できる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はチェック表により確認、把握でき、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量などバランスや健康を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行います。ご利用者皆様にブラッシングはできる限りご自身でやって頂き、自立されている方には声かけ、見守り、確認をしています。介助が必要な方は職員が仕上げを行い口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者様個々の排泄パターンをチェック表等を参考にし、声かけ、誘導、必要に応じた介助を行い、一人ひとりの排泄状況に合わせ、トイレでの排泄、自立にむけた排泄支援に努めています。	一人ひとりに合った排泄を心掛け、さりげなく支援している様子が確認できる。 また、排泄に関する全てのチェック項目が一覧できる記録の工夫で、全職員が共有するとともに、往診医師も確認することで、早めの便秘等の対策や予防へと繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事、水分での予防、腹部マッサージ等工夫を行い、個別により医師との相談により予防、対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前、午後などの時間帯は決めず、「汗をかいたから」、「買い物や散歩に出かけたいわ」等ご利用者の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。また、季節やお花などの入浴剤なども取り入れお風呂が楽しいな時間になるよう心掛けています。	職員の都合に合わせるのではなく、利用者の希望や習慣に合わせての入浴が可能となる支援が行われている。 また、希望者や足の浮腫を持つ利用者へは足浴を実施したり、福祉センターの大浴槽での入浴や温泉地での足浴など、入浴に関する機会は多くバラエティーにも富んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の状況、その日の体調や希望により必要な休息を取っていただき、不安がある時はゆっくりと話を聞いたり、お茶をして安心できる環境を整え、ご自分のペースで気持ちよく安眠できる環境づくりに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、スタッフ一人ひとりが責任を持ちながらも、ダブルチェックできる体制を作り、服薬支援を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や日常の散歩や役割など日々の日課の中でメリハリのある生活を過ごし、一緒にお茶をし、時にはお部屋でお話を聞くなど小さな喜びを大切に組み込んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、ドライブ、畑や買い物、日向ぼっこに隣の公園など日々の生活の中で外に出る取り組みを行っています。また、ご本人の希望を聞き、昔馴染みの美容室へ行かれるご利用者様やご家族の協力のもと趣味のお花に出かけるなどご利用者様の希望する外出支援ができるよう努めています。	住宅地・商業地に近い立地で気軽に買い物に出掛けられることもあり、玄関には散歩用の車いすやシルバーカーが並んでいる。当然、毎日の散歩は日常化し、今までの生活の延長と楽しみであるとともに、利用者にとっては五感刺激や身体機能の維持・継続へと繋がっている。また、美容院への外出、スケートや卓球の大会への応援、全員でのドライブなど、きめ細かな外出支援は家族からも高く評価されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要になれば所持してもらえ環境であり、数名のご利用者様は日頃から所持しているが、「使う」ことを今後支援できるよう体制構築に努めます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望により、電話をかけ御家族、友人等の声を聞き、安心できるよう配慮し、ハガキやお手紙はご本人と一緒に読み上げ、家族や友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングや台所、トイレ等共用部の温度調整、適温を心がけています。ご利用者様の行事等出かけた時のお写真等を飾り、壁面や洗面所にはご利用者様と一緒に作成した季節の飾りつけや一緒に摘んできたお花を飾るなど明るい雰囲気、居心地のよい共用空間づくりを心がけています。	居心地の良い共有スペースを目指し「太陽を明るくしよう計画」を作成・実施している。それは、関連他施設の職員によるフローア・洗面・トイレ・浴室などの抜き打ち検査で、常に清潔で使いやすい環境の維持を図ろうとするものである。また、月毎の利用者の日常生活場面の写真を掲示したり、季節ごとの行事の飾りなど、視覚で楽しむ工夫もしている。	フローアや居室の温度設定に気を配っているものの、高齢の利用者に合わせた温度調節について、現状確認や検討・対策などは必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では、ソファでゆっくりと過ごす時間や皆で歌を歌い、お茶を楽しむ場面も多くあります。またキッチンではスタッフと食事作りの相談をするなどそれぞれのご利用者様が思い思いに過ごせる居場所づくりに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室空間はご家族の写真や思い出の品、各々の大切な物やお花等を飾っていただき、安らぎを感じていただけるよう努めています。衣類や大切にしているバック等大切なものを居室に置くことで安心し、居心地の良い空間づくりに配慮しています。	居室には収納スペースをあえて設けていないことで、利用者ごとにタンスや気に入った生活用具を備えたり家族の写真を飾ったりと、利用者の今と歴史が想像できる居室が並んでいる。 また、家族等の面会も多いのであろう、盛花や生け花など、本人らしい居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者様の「できること」と「危険なこと」を理解、把握するためヒヤリ・ハットを出し合い、集計、確認、検討等することで、安全と自立のバランスを保つよう努めています。		